

2023年度 人間学研究科

| PLAN(計画) | DO(実施) | CHECK(評価) | ACITON(次への改善) |
|---|---|--|--|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 | D:計画を実行しその効果を測定する。 | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる |
| B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一および永久ポート大学の観点から以下各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。 | 各コースB'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図るためPDCAサイクルとリンクさせながら最重要課題及び達成目標を掲げた。 | 100% | すべての最重要課題及び達成目標項目をクリアすることはできなかったが、到達に向け教員組織と事務局が協働しながら一丸となって取り組んだ点は評価できる。 |
| 社会福祉学コースは、新カリキュラム、新メンバーによる教育の安定と魅力ある教育の構築するため、グループでの学会等の参加など、研究の場に触れさせるような、専門的研究法の指導を行う。 | 新カリキュラム、新メンバーによる授業を滞りなく実施した。外部団体の地域活動への参加、シンポジウムへの参加を実施した。また、研究活動において、他大学教授や留学生、福祉施設との交流連携を進めた。 | 100% | 新カリキュラム新メンバーについては魅力的な教育内容に近づいている。自主的な学習環境の構築については、教員主導で着火することができた。 |
| ホームページの詳細な点検と完全リニューアルを実施する。語学サポートの体制構築する。学部と連携し、ホームカミングデーをあやめ祭でブースとして設置、広報につなげる。 | HP点検後、リニューアルおよび修正。あやめ祭で、「中華製造」というブースを設置。中国グッズ、食品の販売を通して地域住民、施設との交流をする。あやめ祭でホームカミングデーを実施し、卒業生の活躍を来場者に披露する。語学サポート体制構築検討。 | HPリニューアル、あやめ祭ブース、ホームカミングデー実施は100%。 | あやめ祭参加は学生には良い経験になったとのことで、伝統にできればと思う。ホームカミングデーは学部中心になったので、院生の活躍も披露できるようにしたい。語学サポートは体制構築の結論が出なかった。 |
| 保育学コースは、コース学生の確保に科目等履修生へのコース入学の促進、幼稚園専修免許取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援、高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営を図るため、修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 | 今年度も科目等履修生が通年で在籍し、臨床発達心理士資格の受験に向けた相談等の対応も行った。コース学生及び科目等履修生募集の支援、高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営を図るため、修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 | 科目等履修生及び聴講生が前期・後期に在籍(100%)。HPリニューアルを実施した一方、リフレット改訂は未実施(50%)。 | 学生数・履修登録数。大学HP。人間学研究科並びに保育学コースに係るポリシーの検討を実施。また保育学コースの院生募集について、本コース会議や人間学研究科委員会、FD研修会で検討し、対応可能なものから実施する。 |
| 幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、保育学コースカリキュラムの改訂を行う。リフレット等を改訂し、免許資格関連科目にして広報すると共に、円滑なコース運営を行う。学生等の研究計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。 | 保育学コースで開設科目及び担当教員について検討を行った。保育・教育領域に関する現代的事項を踏まえ、幼稚園教諭専修免許状及び臨床発達心理士科目に関する科目を再構成した。コース教員での検討会議と共に大学院FD等の機会に、学生指導係の意見交換等を含めた。 | コース会議等の実施、新カリキュラムの策定を行なった(100%)。 | 予定授業の実施は100%、調査の実施は50%。新カリキュラムに関する書類。大学院FD資料。 |
| 臨床心理学コースは、公認心理師・臨床心理士養成のための教育の充実化、就職率の向上、院生の研究力強化を図るため、実践的に活動できる人材育成に向け教育・実習を充実させる。就職内定率を80%以上とする。学会発表、論文執筆を働きかける。 | 資格取得のための勉強会の開催、就職先の紹介、論文執筆のための働きかけを実施した。臨床心理学コースの資格取得率は公認心理師83%、臨床心理士67%、就職率45%。学会発表1件、論文は学会誌へ投稿し、短報として1本がアクセプトされた。 | 100% | 短報ではあるが修士論文をまとめたものを学会誌に1本が公表された。通年実習や臨床心理相談センターでのケース担当を行いながら在籍期間中に達成しており、非常に大きな成果である。資格の合格率も昨年度を上回る好成績となった。就職率は目標基準を下回っているが、施設側からの結果待ちもあり、今後、向上することが見込まれる。 |
| 継続審議である特別課題について検討していく。 | 各コース会議、教務委員会から運営協議会の協議を経て、研究科委員会で審議承認され、特別課題は削除し修士論文のみとする。 | 100% | 特別課題を廃止し、修士論文のみとした。各コース、在籍院生及びアドミッションポリシー等を鑑みつつ、慎重な審議を行い研究科委員会にて承認された。 |

2024年度 人間学研究科

| PLAN(計画) →2023年4月までに |
|---|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 |
| B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一および永久ポート大学の観点から以下に各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。 |
| 社会福祉学コース 新メンバーによる授業の充実 学生の自主的な学習態度の育成 |
| ・特別研究担当教員の減少を受けて、修士論文指導体制の検討 ・多様な学生の自主的な学習体制を構築する指導 ・院生の学会発表に向けての指導 ・ランゲージサロンとの教育サポート連携の構築 ・修了生、上級生下級生の交流の充実 |
| ・公認心理師、臨床心理士養成のための教育の充実化 ・公認心理師試験の合格 ・院生の研究力強化 |
| ・実践的に活動できる人材育成に向け、教育・実習を充実 ・公認心理師試験の合格率:全体平均以上の合格率 ・学会入会、学会発表、論文執筆を働きかける |
| 保育学コース ・コース学生の確保として、特に科目等履修生の募集と共に受講生へのコース入学の促進 ・幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援 ・高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営 |
| ・修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 ・保育学コース科目等履修リフレット等を確認し、免許資格関連科目にして広報する。 ・幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資する。 ・コース開設科目及び担当教員について検討し、必要に応じてカリキュラム改訂を行う。 ・学生等の研究・学習計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。 |

2023年度 人間学研究科

| PLAN(計画) | | DO(実施) | | CHECK(評価) | | ACITON(次への改善) |
|---|---|--------------------|--|-------------------------------|---|-------------------------------------|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 | | D:計画を実行しその効果を測定する。 | 実施状況(実施率) | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 | | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる |
| | | | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | |
| 院生の受け入れに対する適正性(アドミッション・ポリシー)について、自己点検、評価体制とその方法を構築していく。 | 院生の受け入れに対する適正性(アドミッション・ポリシー)を含め、人間学専攻(社会福祉学コース・保育学コース)及び心理学専攻(臨床心理学コース)において審議し研究科委員会に於いて新しい3ポリシーが承認された。 | 100% | 新しい3ポリシーを策定。2024年度より運用開始。また、教学IRにおけるFD研修会を実施し、院生の受け入れに関する適正性及び定員管理のための協議を実施。 | 学則・コース会議・教務委員会・運営協議会・FD研修会 | 認証評価指摘事項における審議終了。改善策定項目を継続的に運用する。『課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる』。 | |
| 教学IRの視点から今年度もFDの充実化を図り遂行する。 | 2023年11月研究科委員会終了後FD研修会を実施。「入学定員管理～各コースの現状と課題:様々な視点からの情報共有」についての協議が行われた。 | 100% | 具体的な改善策の立案及び具体的なアクションプランの策定までは到達しなかったが、各コースの現状把握と課題の抽出まではたどり着いた。次年度のPLANに組み込む。 | FD研修会議事録 | 過去3年間のFD研修会の成果を基に、2024年度のFD研修会内容を吟味することにより、ブラッシュアップされた協議が期待できる。 | |

2024年度 人間学研究科

| |
|----------------------------|
| PLAN(計画) → 2023年4月までに |
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 |